

# 江戸時代の身分制度

## 1. 目標

○豊臣政権により、区別・固定されていった身分が江戸幕府によっていっそう固定化され、身分制度として確立していった背景を理解する。

○それとともに、身分と職業・役負担が一体化していたことを知る。

## 2. 準備物

- ・教科書
- ・資料集など

## 3. 所要時間

全1回（50分×1回）

## 4. キーワード

人口割合・疎外・人口増加

5. 指導計画

	学習内容(○) 生徒の活動(・)	教員の学習支援(発言「 」)	留意点(◎)
導入 (5分)	○資料の提示 ・江戸時代の人口の割合から、当時の人口について考える。	「江戸時代にどのような身分の人たちがいたのか調べてみよう。」 (教科書を使って調べる。)	◎教科書の人口の割合を参考にする。 武士, 百姓, 町人, 僧・神官, えた身分, ひにん身分, 公家。
展開 (40分)	○武士と百姓にどのような決まりがあるかを調べる。  ○江戸幕府の5人組制度について説明を聞く。 気づいたことをグループで交流する。  ○資料を基に差別された人の生活について確認する。 (資料『もうひとつの日本の歴史』 P10~P19 など参考に)  ①個人 → グループ → 個人 ②教師からの解説	「幕府は、どのようにして百姓を支配していたのだろうか。」  ・触書や連帯責任で年貢を納めさせるなど。  「仕事と役目が一体となっていたことを学習したが、どのような役目だったのだろうか。」  江戸時代の人口のグラフと、ある被差別部落の人口のグラフの変化を用意し、読み取らせる。 「このデータからどのようなことがわかるのか。」  ・差別を受けている地域でも仕事がある。 ・人口がどんどん増えている。 ・どうして、被差別民の村が増えているのか考えさせる。	身分を固定化し、職業やその身分に伴う役負担を、親から子へと、代々世襲させたことを説明する。  農業だけでなく、皮革業・刑吏役・芸能・医者・染め物・竹細工などの様々な仕事をしながら生活していた。どれも、人々の生活にかかせないものであり、社会を支えていたものである。 当時でも、皮を張った雪駄などは高級品であった。  ○1700年ごろまでは人口が増加し、それ以後、3000万人前後で停滞している。これは、江戸時代初頭から元禄期にかけて行われた新田開発、それによる耕地面積・農業生産力の増大によるものと考えられている。しかし、その経済構造は、百姓を耕地にしばりつけた農業中心の経済構造である。 被差別部落の人口は、増

			<p>加をたどっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの被差別部落が増加している</li> <li>・出生による自然増</li> <li>・農業にこだわらないさまざまな生業</li> <li>・相互扶助による暮らし</li> </ul>
まとめ (5分)			<p>◎近世被差別身分の人々は、身分固有の役負担を課せられながらも、土地を保有して農業に従事し、年貢を負担している人も多い。</p> <p>部落問題学習では、長い間、村の百姓や町の町人が、近世被差別民の差別とのかかわりでふれられることはなかった。しかし、部落史研究の進展により、村や町の一般の人々の世俗的差別とそれによる差別的排除が、近世被差別部落とのかかわりで明らかにされてきた。</p>

(参考資料)

- ・「小学校・中学校 社会 人権・同和教育基本資料 基礎的知識と学習指導案」『東京書籍』
- ・『絵本 もうひとつの日本の歴史』中尾健次・文 西村繁男・絵 (エルくらぶ)